

学位論文内容の要旨

学位論文題目名 台湾から日本への留学に関する実証的研究
—社会移動の効果に焦点をおいて—

報告者氏名 WANG PEI YU (王 珮瑜)

台湾における 2008 年の留学ビザ取得者数は 37,800 人で、戦後最多を記録した。そのうち、日本への留学ビザを取得した者は 2,638 人で、日本への留学希望者は増加傾向にある。

日本への留学は、台湾の近・現代史において大きな比重を占めてきた。例えば、1996 年に行われた台湾史上初の民選総統選挙に立候補した 4 人のうち、李登輝、彭明敏、林洋港の 3 人はいずれも日本留学経験者である。近年、マスメディアを通じて日本に関する様々な情報が台湾にもたらされ、台湾の若者は、日本に関心をもち、日本への留学の背景にもなっている。

本論文は、留学はその多くが将来の社会的地位の上昇を期待した行為であり、しかも国という異なる社会的・文化的コンテクストを越える地域間の移動でもあることに注目し、台湾から日本への留学を、社会移動の具体的な現象として実証的に分析したものである。

ところで、社会移動の研究に関しては、職業的・階層的地位の変化に関する社会階層間移動の研究や、農村から都市への地域間の移動について多くの理論的・実証的研究がある。また、留学や留学生に関する実証的研究は、留学に伴う孤立や不安および不満に関する事実を示したものが多く、その事実を説明する理論的な裏付けを欠いていた。

社会移動の効果に関しては、社会移動が、移動者の社会関係や集団参加からの社会的孤立などのマイナスの効果をもたらす「分離仮説」と、あらかじめ到着しようとする階層や地域社会の規範、生活様式を先取することによって、そのマイナス効果を緩和できるという「社会化仮説」とが提示されている。

本論文は、それらの仮説を手がかりに、留学前に「先取りした社会化」がなされているか、また、留学中の社会関係や集団参加、すなわち留学生の生活構造にみる適応がなされているか、さらに、留学経験者に先取りした社会化や生活構造の適応がみられたかなど、台湾から日本への留学に焦点をおいて社会移動の効果を考察したものである。

序章では、留学生の人間関係をとりにくく諸問題を提示し、先取りした社会化が、留学生活への適応にどのような影響を与えるか、留學生活の適応と不適応が留学効果にどのような影響を及ぼすかを実証的に明らかにする、本論文の目的を述べた。

第 1 章「留学と社会移動」では、社会移動の効果をめぐる理論的先行研究や、留学に関する実証的先行研究を考察した。

第 2 章「分析枠組と研究方法」では、先取りした社会化、留学後の適応、留学の成果に関する分析枠組を提示し、留学前、留学中、留学を終えての帰国後、の 3 つの段階における実証的分析のための研究枠組と調査方法を述べた。

第3章「台湾の大学生における留学意識と留学」では、学力レベルの異なる大学4校の学生665名を対象に、台湾における大学生の社会移動意識調査を行い、台湾の大学生における上昇志向と留学意識との関連、日本に対する社会的距離と留学意識との関連、先取りした社会化と留学意識との関連を分析した。調査結果から、台湾の留學生の増加の背景には、上昇志向のみならず、多様な意識で留学が望まれていることが明らかとなった。

第4章「留學生の生活構造」では、山口大学における留學生167名を対象に留學生生活の適応に関する調査を実施し、生活構造に及ぼす社会的効果の分析を行った。その結果、先取りした社会化と留學生生活に対する満足度や社会関係や集団参加との関連が明らかとなり、さらに、日本人への同調意識も高く、「先取りした社会化が有効である」ことが証明された。

第5章「台湾における日本留学」では、社会移動の効果に影響を及ぼす社会的・文化的コンテクストに注目し、日本統治時代から今日に至るまでの120年間を、「日本統治時代」「蒋介石・蔣経国時代」「民主化時代」の3期に分け、各時期における留学の背景、留学の実態、留学支援制度について述べた。

第6章「日本統治時代の留学支援制度と内地留学」では、文献資料の分析から、内地留学を促す社会的・文化的コンテクストと内地留學者の出身階層の特徴を明らかにし、内地留學経験者の留學生生活の適応と帰国後の留學成果を分析した。

第7章「蒋介石・蔣経国時代の留學経験者にみる社会移動の効果」では、第2次世界大戦後の日本留学に注目し、帰国した留學経験者に関する文献資料の分析を行った。

第8章「民主化時代の留學経験者にみる社会移動の効果」では、留學経験者35名を事例とした聴き取り調査によって、来日前の先取りした社会化と留學後の適応および帰国後の留學の成果との関連を検討した。

終章は結論で、「日本統治時代」「蒋介石・蔣経国時代」「民主化時代」、それぞれの社会的・文化的コンテクストにおける留学は、いずれにおいても、先取りした社会化や、留學後の効果としての社会的適応が、留學の成果と密接に関連していることが明らかとなった。

これらの留学を社会移動と位置づけた実証的研究の結果から、留学の実態が解明され、より効果のある留学のためには、「留学先に関する情報収集」や「言語能力の向上」などの先取りした社会化と、「社会的ネットワークの形成や拡大」に関する技法が不可欠であることを提言した。